

会議録

会議の名称	第2回西東京市小中学校通学区見直し等に関する向台・新町地域協議会
開催日時	平成21年10月13日(火曜日) 午後2時から3時30分まで
開催場所 出席者	向台小学校 ランチルーム 委員：高野 富、倉掛 泉、藤田 真理、清水 豊保、丸山 儀一、吉田 勉、大宮 真美江、高間館 留美子、横道 美代子、高萩 幹寛、深田 章子、千葉 礼子、室伏 美奈子、橋本 有希、石川 圭子、森田 朋恵、今井 文男、小林 薫、村松 昭栄、福間 和正、荒井 信子、村上 奈緒子、嶋田 安民、木曾 友仁、山田 佐登美、山本 真弓、紺野 和子、二谷 保夫(欠席者：丸山 久美子、高谷 好文、古海 牧子、北川 元昭、土方 孝一郎) 事務局：櫻井 勉(教育部教育企画課長)、清水 達美(教育部教育企画課企画調整係長)、佐藤 陽子(教育部教育企画課企画調整係主事)、後藤 幸男(教育部教育企画課学務係長)、山岡 昇(教育部教育企画課学務係主任)
議事	1 開会 2 第1回会議録について 3 資料説明 4 意見・質問 5 次回の開催日程 6 閉会
会議資料	配布資料 資料1 第1回会議録(案) 資料2 意見・質問等シートの集計結果 資料3 新町学区 通学校分布図(小学校、中学校) 資料4 現状の学区(小学校、中学校) 資料5 現行制度の説明 資料6 児童・生徒数推計シミュレーション1~3 資料7 教室使用状況一覧表
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>議事1 開会 会長(田無第一中学校長・今井委員)より、第2回向台・新町地域協議会の開催にあたっての挨拶。副会長の選出後、副会長(丸山委員)より挨拶。</p> <p>議事2 第1回会議録について 各委員が資料1を確認後、承認。</p> <p>議事3 資料説明 事務局から資料2~7の説明。</p> <p>議事4 意見・質問</p> <p>委員： シミュレーション1~3において、児童数を学級数で割ると、上向台小学校や田無第四中学校の1学級あたりの人数が38人になるなどとても多い。単純に1学級あたりの児童数で考えると、シミュレーション3が人数の増加傾向が穏やかでよい。世の中の情勢としては30人学級を目指す方向だが、その点について校長先生のご意見を伺いたい。</p> <p>委員(小学校長)： 30人学級を徹底することは、通学区の見直しよりも広い視点の制度の見直しに関わってくる。小学校において、低学年で30人程度のクラスがあることは助かるが、高学年になると児童も成長してくるので、必ずしも30人程度のクラスが望ましいというわけではない。</p>	

委員（中学校長）：

30 人学級は教師の目が届きやすいという利点はあるが、人間関係が狭くなること等も含めて考えると、人数が少なければいいというわけでもない。それぞれメリット・デメリットがある。

委員（中学校長）：

本校は 1 学級 37 人程度と人数が多い。平成 22 年 3 月入居予定の大規模マンションの転入状況により、生徒数が全体で 600 人を超える可能性もある。資料 7 にもあるように、15 の普通教室で対応できない場合、3 つの一時的転用教室をつぶすことになる。しかし、こちらは現在英語少人数教室として利用しており、教育効果が下がるなど施設面での問題がある。

委員（中学校長）：

1 学級あたりの生徒数については、教員の定数との関連もあり一概にどちらがよいとは言えない。例えば学校行事などは人数が多い方が盛り上がるし、人間関係が希薄といわれる近年には大きな集団の中で過ごす経験もメリットになり得る。一方で施設面での問題はやはり大きい。

委員：

田無第四中学校に子供が通っているが、部活動がさかんで、1 つの校庭でたくさんの部が同時に活動している。例えばテニスをしていると、野球のボールが飛んでくるといったように身の危険を感じると子供が言っているが、校庭の許容人数など施設の安全面については考えているのか？

委員（中学校長）：

校庭の安全は、部活動の曜日・時間で調整し、組み合わせを考えて対応すべき問題であって、生徒数とはあまり関係がなく、分けて考えるべきではないか。

委員：

資料 6 では、同じ小学校の子供は同じ中学校へ行くものとしてシミュレーションしているが、1 つの小学校から 2 つの中学校へ分かれて行く場合のシミュレーションも考えているのか？

事務局：

新町地域の方が主に通う保谷第二小学校、向台小学校、上向台小学校は現在、小学校ごとに行く中学校が 1 校に決まっているので、新しい通学区域においてもこの考えを踏襲していきたい。あまり細かく分けることは、理由づけも難しいし、将来的に適正であるか不明である。児童の友人関係の継続や、その他の混乱を避けるためにも、同一小学校からは同一中学校へという前提を保つ方針であり、1 つの小学校から 2 つの中学校へ分かれて行く場合のシミュレーションは今のところ考えていない。

委員：

合併時の想定では、児童生徒数が減少するので学校を統廃合しなければならないと考えていたが、企業が撤退した後に大規模マンションが建設され、状況が変わった。資料 6 の中ではシミュレーション 3 でよいと思うが、このシミュレーションは新町地域の変更だけを考えたものである。例えば田無町二丁目は現在田無第四中学校の学区だが、平成 19 年度には田無第二中学校の学区とする話が出ていた。今回のシミュレーションでは田無町二丁目を現状のまま田無第四中学校の学区としているのか？また、今後新町地域以外の学区については変更を考えているのか？

事務局：

資料 6 では、田無町二丁目は現状のまま田無第四中学校の学区としてシミュレーションしている。今後、谷戸地域については変更を考えているが、それ以外の学区について変更は考えていない。

事務局：

ある程度実態をふまえた上で、資料 2 の意見等も視野に入れ、どのシミュレーションがよいか選択していただきたい。ポイントは新町二丁目を保谷第二小学校の学区に、新町五丁目を上向台小学校の学区に入れるかどうかである。その他の地域については、ほぼ通学校が決まっている。（一丁目は保

谷第二小学校、三丁目・四丁目は向台小学校、六丁目は上向台小学校)

シミュレーション 1 は実態に即したものである。シミュレーション 2 は、児童生徒数の視点を加味して、一丁目・二丁目を保谷第二小学校としている。シミュレーション 3 は、三丁目・四丁目・五丁目を向台小学校としているため、児童数の面で向台小学校が厳しい状況になる。

委員：

具体的にはどのように厳しい状況となるのか？

事務局：

向台小学校は平成 26 年度にボーダーの 24 学級となるが、このシミュレーションより若干児童数が増えただけでさらに 1 クラス増えてしまう学年があり、そうなると 25 学級となる。この場合資料 7 より利用可能な教室数が足りなくなるため、増改築の必要がでてくる。

事務局：

この場で決めるのは難しいと思うので、次回までに周りの人の意見も聞いていただき、どのシミュレーションがよいか考えてほしい。事務局では、今説明したようにシミュレーション 3 は向台小学校に不具合が生じるので、実態に合い理解も得やすい 1 か 2 を考えている。

委員：

我々は素人なので、安全面についてはわかるが、設備などハード面はよくわからない。次回までに各委員が意見をまとめてどのシミュレーションを希望するか決めてもらった方が、方向性が定まってよいのではないか。

会長：

それではシミュレーションの決定を宿題とさせていただく。多角的な視点から検討し、課題・問題点等についても挙げてもらいたい。

事務局：

前回同様、回答用のシートを作成して送付するので、記入後返送願いたい。

議事 5 次回の開催日程

事務局より、次回会議を 11 月 17 日（火曜日）14 時から田無第一中学校で開催する旨お伝えし、了解を得る。

議事 6 閉会

会長より、閉会にあたっての挨拶。

以上